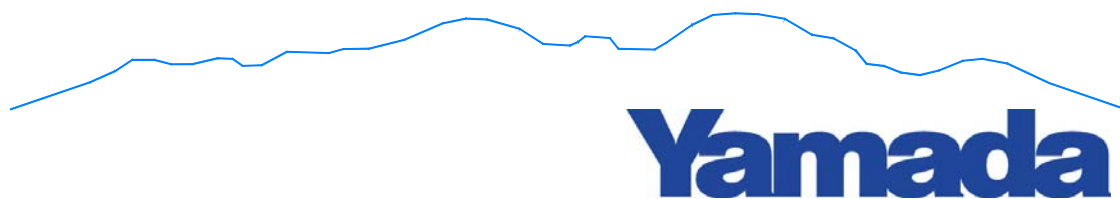


2021.22 年度エコアクション 21

環境経営レポート

活動期間 2021 年 7 月～2022 年 6 月

発行 2022 年 10 月 21 日



環境方針

我々の生活環境をおびやかす気候変動、地下資源の枯渇、核問題、大量生産・大量廃棄など、対処すべき問題は山積であり、このままでは未来の世代にまで負担を強いることになってしまいます。

私たち山田建設株式会社では、建設業の事業活動において環境負荷の低減を図り、未来の世代のため、ムリ・ムダ・ムラのない持続可能な活動を目指します。

- 1 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組めます。
- 2 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進に取り組めます。
- 3 水資源使用量の削減に取り組めます。
- 4 化学物質使用量の削減に取り組めます。
- 5 グリーン購入の推進に取り組めます。
- 6 環境に配慮した取組を推進します。
- 7 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定 2015年8月17日

山田建設株式会社

代表取締役



組織の概要

●名称及び代表者

山田建設株式会社

代表取締役 山田 孝

●事業の内容 許可業種

土木、とび・土工、舗装、水道施設工事業、解体

山形県知事許可(特-2) 第 400105 号

建築、大工、屋根、管、タイル・れんが・ブロック鋼構造物、鉄筋、内装仕上、造園工事業

山形県知事許可(般-2)第 400105 号

山形県産業廃棄物収集運搬業

第 0604125172 号

宮城県産業廃棄物収集運搬業

第 00400125172 号

特例浄化槽工事業者

山形県知事(届-22)新第 65 号

屋外広告業

山形県屋外広告業登録第 570 号

●所在地及び連絡先

〒999-6104 山形県最上郡最上町大字本城 396-2

TEL (0233) 43-2168 FAX (0233) 43-2004

Email info@yamada-inc.jp

環境管理責任者 山田 孝

環境事務担当者 山田 ゆかり

●事業規模

売上高 5 億円

従業員 23 名

延床面積 本社 294 m²、資材倉庫 302 m²の合計 596 m²

対象範囲と対象取組期間

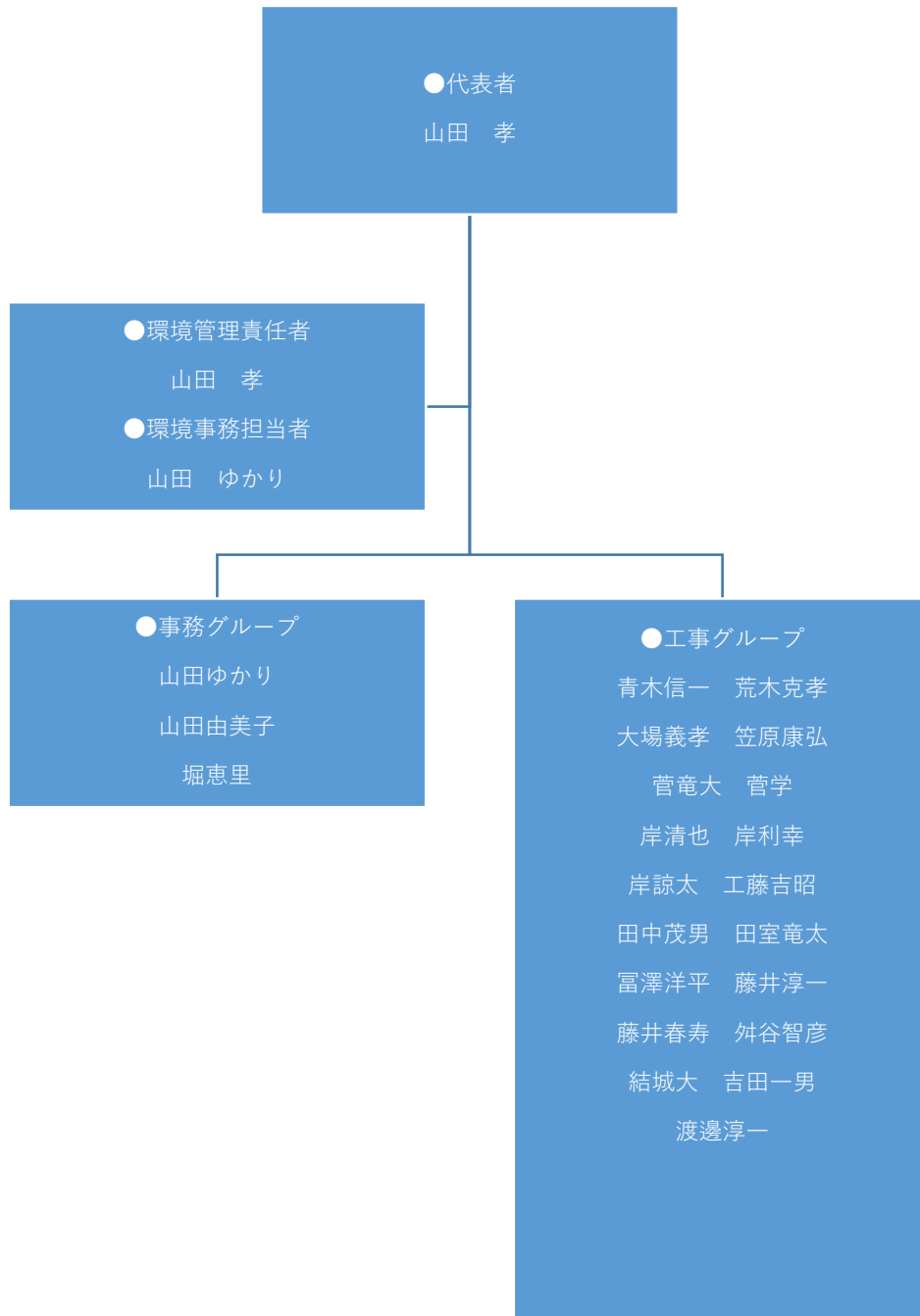
- 認証・登録の対象範囲

山田建設株式会社における全組織・全活動

- 環境活動レポートの対象取組期間

2021年7月1日～2022年6月30日

実施体制図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限

代表者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営に関する統括責任・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備・環境管理責任者を任命・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする・環境目標・環境活動計画書を承認・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの構築、実施、管理・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施・環境関連法規等の取りまとめ表を承認・環境目標・環境活動計画書の作成と確認・環境活動の取組結果を代表者へ報告・環境活動レポートの作成と確認・環境方針の周知・従業員に対する教育訓練の実施・環境活動計画の実施及び達成状況の報告・必要とされる手順書の作成及び手順書による実施・想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成・試行・訓練を実施、記録の作成・問題点の発見、是正、予防処置の実施
環境事務担当者	<ul style="list-style-type: none">・環境管理責任者の補佐・環境活動の実績集計・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・環境活動レポートの公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・環境目標達成するための活動の実施・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境目標

●事業所環境目標		2021.22 年度	2022.23 年度	2023.24 年度
二酸化炭素 排出量	電力消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
廃棄物排出 量	一般廃棄物排出量	2015 年度比 7% 削減	2015 年度比 8% 削減	2015 年度比 9% 削減
総排水量	水使用量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
グリーン購 入	グリーン購入件数	2014 年度比 7 件 以上増加	2014 年度比 8 件 以上増加	2014 年度比 9 件 以上増加
●建設現場環境目標		2021.22 年度	2022.23 年度	2023.24 年度
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
二酸化炭素 排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
廃棄物排出 量	産業廃棄物排出量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
化学物質排 出量	化学物質使用量	2014 年度比 7% 削減	2014 年度比 8% 削減	2014 年度比 9% 削減
社会貢献	環境への配慮した 活動件数	2014 年度比 7 件 以上増加	2014 年度比 8 件 以上増加	2014 年度比 9 件 以上増加

環境目標の実績

●事業所環境目標の実績		単位	2021.22年 度計画値	2021.22年 度実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
7月～6月							
二酸化炭素排出量	電力消費量	kwh	6658	5854	▲804	87.9%	○
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	p	10.112 (782.31ℓ)	30.143 (2814.43ℓ)	20.031	298.1%	×
二酸化炭素排出量	軽油消費量	P	70.563 (4204.55ℓ)	0.000 (0.00ℓ)	▲70.563	0%	○
二酸化炭素排出量	灯油消費量	ℓ	1115	815	▲300	73.1%	○
二酸化炭素排出量	上記合計	kg-CO2	19403.53	11512.39	▲7891.14	59.3%	○
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	604.0	422.0	▲182.0	69.8%	○
総排水量	水使用量	m3	46	41	▲5	89.1%	○
グリーン購入	グリーン購入件数	件	19	26	7	136.8%	○
●建設現場環境目標の実績		単位	2020.21年 度計画値	2020.21年 度実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
7月～6月							
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	P	26.303 (1918.17ℓ)	21.460 (2237.25ℓ)	▲4.843	81.6%	○
二酸化炭素排出量	軽油消費量	P	1204.205 (60230.21ℓ)	1031.040 (173049.77ℓ)	▲173.165	85.6%	○
二酸化炭素排出量	灯油消費量	P	29.965 (2070.75ℓ)	3.289 (1500.00ℓ)	▲26.676	11.0%	○
二酸化炭素排出量	上記合計	kg-CO2	165382.07	456476.81	291094.74	276.0%	×
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量	t	49.50	102.59	53.09	207.3%	×
化学物質排出量	化学物質使用量	kg	51.00	4.00	▲47.00	7.8%	○
社会貢献	環境への配慮した活動件数	件	8	7	▲1	87.5%	×

●事業所環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 排出量	電力消費量	計画値及び前年比ともに達成。 中間期の空調がキーポイント。
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費 量	計画値で達成、前年比で達成できず。 6月売上現象が未達の原因だった。
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	計画値及び前年比ともに達成。 ディーゼル車がなくなったため達成できている。
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	計画値及び前年比ともに達成。 中間期の暖房がキーポイント。
廃棄物排出 量	一般廃棄物排 出量	計画値及び前年比ともに達成。 コピー用紙リサイクル分の計上漏れの可能性あり。
総排水量	水使用量	計画値及び前年比ともに達成。 今後は雨水の利用など検討したい。
グリーン購 入	グリーン購入 件数	計画値で達成、前年比で同等。 必要最低限の購入を心がける。

●建設現場環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 排出量	ガソリン消費 量	計画値で達成、前年比で達成できず。 レンタルガソリン車の増加がきている様子。
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	計画値で達成、前年比で達成できず。 受注金額と稼働重機数の関係性が影響している。
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	計画値及び前年比で達成。 現場でのコンクリート養生減少が原因。
廃棄物排出 量	産業廃棄物排 出量	産廃発生現場が多く未達成。 比較することが困難。
化学物質排 出量	化学物質使用 量	購入数量がすくなかったため達成できた。 今後もこのまま様子をみていきたい。
社会貢献	環境への配慮 した活動件数	計画値で達成できず、前年比で達成。 内容を明確にしたが、さらなる実行内容の検討が必要。

※二酸化炭素排出量(kg-CO₂)への換算方法は下記のとおり。

- ・ 電力消費量 kwh × 排出係数 0.591(2013 年度東北電力)
- ・ ガソリン消費量 ℓ × 排出係数 0.0671 × 単位発熱量 34.6MJ/ℓ
- ・ 軽油消費量 ℓ × 排出係数 0.0686 × 単位発熱量 37.7MJ/ℓ
- ・ 灯油消費量 ℓ × 排出係数 0.0679 × 単位発熱量 36.7MJ/ℓ

※ガソリン・軽油・灯油消費量の P(ポイント)の算出方法は、各消費量 ÷ 売上高 × 100000 とする。



1.POWJapan とパートナー関係の継続 2・3.沿道の清掃 4.ボランティアによる記念碑修繕 5.複合施設 UNE への協力 6.上映会の開催 7.省エネ勉強会の開催

環境活動計画

以下のとおり、環境活動目標を策定し、取組状況の評価を○△×にて行った。○は十分、△は不十分、×は未実施とした。

- 事業所電力消費量削減
 - OA 機器待機電力削減
 - 照明の不要時消灯
 - トイレの暖房便座のタイマー化
- 事業所ガソリン消費量削減
 - 単一業務での車両利用の低減
 - 自転車の利用
 - エコドライブ研修会の実施
- 事業所軽油消費量削減
 - 単一業務での車両利用の低減
 - 自転車の利用
 - エコドライブ研修会の実施
- 事業所灯油消費量削減
 - 休日のタイマー暖房の禁止
 - △設定温度の見直し
 - バイオマスストーブの導入
 - 寒冷地エアコンの導入
- 事業所一般廃棄物排出量削減
 - △漏れのなく排出量を測定
 - リサイクルの推進
- 事業所水使用量削減
 - 水サーバーの有効利用
 - 節水トイレへ交換
- 事業所グリーン購入推進
 - 購入前の商品の確認
 - 必要最低限の購入
- 建設現場ガソリン消費量削減
 - △機材のアイドリングストップ
 - 充電式機材の利用
- 建設現場軽油消費量削減
 - 効率のよい重機作業の実施
 - 乗り合い通勤の実施
 - エコドライブ研修会の実施
 - エコワーク研修会の実施
 - △使用重機の燃費監視
- 建設現場灯油消費量削減
 - △暖房室にあった暖房器具の選定
- 建設現場産業廃棄物排出量削減
 - 購入資材の数量は余分なものが発生しないよう検討
 - △必要のない消費行動は控える
 - リサイクルの推進
- 建設現場化学物質使用量削減
 - 必要最低限の量を購入し、保管在庫も積極的に使用
- 建設現場環境に配慮した活動の推進
 - △各現場に見合った取組を検討し実行

以上の取組状況の評価を踏まえ、次年度以降の取組内容は以下のものを重点的に行う。

- 1 エコドライブ及びエコワーク研修会の反復実施
- 2 重機、車両、機材等の更新時に燃料消費量の少ないものの選定と消費量の監視
- 3 バッテリーや充電式機材の充実
- 4 リサイクル活動の充実

環境関連法規等の遵守の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社が遵守すべき主な環境関連法規等は以下のとおり。

環境関連法規等の名称	遵守すべき内容	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準、委託契約、マニフェスト交付、交付状況の報告、保管場所掲示板設置	○
リサイクル法	再生資源利用計画書・実施書並びに促進計画書・実施書の作成	○
排出ガス対策型建設機械普及促進規定	排ガス対策機械の使用	○
道路交通法	積載基準の遵守	○

2021年10月23日付において、環境関連法規等の遵守状況を確認したところ、マニフェスト交付状況の報告漏れがあったが、2022年2月17日付けで報告受理を確認、そのほか違反状態はみられなかった。また過去3年間、関係当局からの違反等の指摘や指導及び外部からの訴訟はなかった。

代表者による全体評価と見直し結果

●環境経営システムの有効性の評価

環境目標のひとつである環境に配慮した活動とは、「太陽光発電の利用、周辺環境の清掃や整備、工期短縮や使用材料の縮減の創意工夫、自然にやさしい素材でできた消耗品の利用」などといった活動を評価することを明確にした。現場における廃棄物排出量比較も元請工事の種類によっても左右されてしまうので、致し方なしということにした。また燃料消費量をポイント制にしたことで、請求のタイミングにより売上が極端に少ない月がでてしまうことがみうけられたが、このまま変更なしでポイント制を継続していく。

全体的に有効であると評価する。

●環境経営システム変更の必要性

環境方針は変更の必要性はなし。環境目標は、2021.22～2023.24までの目標を新たに設定した。前期より、建設現場の廃棄物を分別し、リサイクル可能なものを可燃ゴミや埋立ゴミとして排出するのをやめ、リサイクルしているが、それをどのような指標で評価できるか検討したい。環境経営システムは前述のとおりシンプルにムダなく機能し、的確に評価できるように適宜見直す必要がある。

●代表者による総括

ウィズコロナの時代になってきており、コロナ前の生活に近づいてきました。また、ロシアによるウクライナ侵攻などによる地政学的リスクが表面化し、エネルギーや資材の高騰を招き生活や経済活動を直撃しています。やはり人間としての活動を見直さなくてはならない局面にきているのではないかと感じます。当社で行っているカーボンオフセットによるCO₂の相殺は、いまでも心のどこかに引っかかりが残っています。以前から計画をしていたBcorpの認証取得に挑戦することで、カーボンだけの側面ではなく、もっと多様な側面から地球人として、あらゆることに配慮できなければと思っています。またカーボンの側面においても、本来地元にある樹種の森に戻す植林活動などにより、排出量を将来的にオフセットできたらいいのではないかなども検討していきたいと思えます。